

多読を取り入れた授業

樟蔭中学・高等学校英語科主任 大喜多正仁

高校児童教育・健康栄養・進学コースでは、reading・writing・speaking・listening を統合的にカリキュラムに取り入れるため、英語教育センター指導の下、大学の英語教育と連携を図りながら、昨年度の9月頃から改善チームを作り会議を重ねてきたことは、このフォーラム第1号にも掲載しましたが、いよいよ今年度の1年生からそのカリキュラムを実践する授業が始まりました。その中で生徒達がコンピュータを使って自主的に取り組み、目標をしっかりと持って進めている「reading」への取り組み、Extensive Reading（多読）についてまとめてみたいと思います。

「多読」とは、数多くの英文の短編をある程度の時間内に読むことによって、従来の検定教科書を使って1文1文の詳しい訳を確認していた授業と違い、英文の意味にとらわれることなく全体を把握して、物語の内容を理解する力をつけるのを目標とした取り組みです。この「多読」で使っているテキスト（Foundations Reading Library）にはレベル1～レベル7までの7段階があり、段階が進むにつれ使われている語数が増えていきます。2012年度はレベル1から始めレベル4まで進みました。レベル4のテキストで使われている語数は1200～1400語です。検定教科書と違い難しい単語は出てきませんが、初めて1200～1400語の物語を読んだ時は、その長さに生徒達は驚きの表情を隠せません。しかし、今までレベルを3段階進んできた自信もあり、真剣なまなざしでテキストに組み込み、読むスピードも徐々に速くなっていきます。

具体的な授業の進め方として、まずコンピュータ室に来た生徒たちは教室の前にある机の上に並べられてある6種類の内容のテキストから、自分が読みたいと思うものを選びます（写真①）。テキストを選んだら黙読します。



写真①

黙読の制限時間は特に設定していませんが、およそ15～20分で読み終わります。分からない単語や文章があっても辞書を使わず、前後の流れやイラストを見て内容を把握していきます(写真②と③)。



写真②

読み終わったら内容が把握できたかどうかのチェックです(写真④)。そのチェックの時にコンピュータを使うのでコンピュータ室で授業をしています。インターネット内の「moodle reader」(これは、京都産業大学のThomas N. Robb教授によって開発されたものです)というサイトを使い内容把握のチェックを行いますが、このサイトを使って「多読」に取り組んでいる高校はまだまだわずかです。「moodle reader」でのチェックはクイズ形式になっており、そのクイズを解きながらどれだけ内容を覚えているか、内容を理解しているかを見ていきます(写真⑤)。



写真③

クイズの形式は2択問題から、誰が誰にどのようなセリフを言ったかという細かな内容まであり、最後には物語の内容についての英文を並べ変えるものまであります。だから曖昧に物語を読んでも「moodle reader」でのクイズでは高得点は望めません。



写真④

すべてのクイズが終われば自動的に正解率がパーセントで出る画面が出てきて、それによって自分がどれだけ内容を把握できていたかが分かります(写真⑥)。その正解率がトータルポイントとして毎回加算され、自分のポイン



写真⑤

トとなっていくます。しかし、moodle reader では60%以上の合格率でないとトータルポイントに加算されない仕組みになっていて、写真⑦では一番下の「14.44%」はポイントとして認められていません。このようにしてトータルポイントを加算しながら、一定の目標ポイントを目指して多読を行っています。



写真⑥

さて、実際にこの多読を行っている生徒たちは、どのような感想を持っているのでしょうか。ここでその感想を少し紹介したいと思います。

Words	Percent Correct	Total Points
622	94.44%	1
504	100%	2
620	85.96%	3
526	81.48%	4
568	83.33%	5
757	76.47%	6
895	100%	7
	14.44%	7

Term: 4492 Total Words Read All Terms: 4492

写真⑦

*絵の雰囲気でお話の大部分は分かりました。

*文が多くなったので、読む力がつくように頑張ります。

*分からない単語がありましたが理解できました。もう少し早く読みたい。

*読むスピードが速くなっている気がします。理解も少しずつができるようになってきました。

*レベルが1つ上がったので、いつもより深く細かく読みました。何回も読み直したので、問題もスラスラ解けました。

Title	Date	Score	
Sick for Jake	7/2	100%	
The New Guitar	7/14	90%	
TROUBLE at the ZOO	7/17	100%	
Singer Wanted	7/19	100%	
Old Boat, New Boat	7/22	100%	
The Cave	7/23	100%	

S. No. Name

写真⑧

なお、生徒にはあらかじめスコアシートを配布し（写真⑧）、moodle 終了後にスコアや物語の感想などを書かせて毎時間提出させチェックをしています。

4月から始めたこの取り組み。手探りの状態で始めたところもありましたが、少しは流れができ、授業も円滑に進むようになりました。が、この半年を振り返り担当者間で気づいた点を挙げました。

まずは、発想の転換が必要であった点です。今までは検定教科書を使って

授業を展開してきましたが、新しい取り組みは検定教科書を使わずに展開するので、担当者同士の共通理解が不可欠であり、それを深めるために10数回のミーティングを開いてきました。なお、検定教科書は「英語演習」という授業で取り扱っています。

次に、授業の進度や定期テストへの出題形式等を話し合うために、週に1度の打ち合わせの時間を確保している点です。行事等の関係でクラス間の授業時間数に差が出てくるのは当然で、その差で生じた進度差を少なくし、定期テストの範囲を同じにする（定期テストは統一問題で実施しています）ため、担当者の空き時間を調整し週に1度の打ち合わせの時間を確保しました。

さて、今年は「初年度」でしたので、対象学年は1学年だけでしたが、来年度はこの取り組みを広げ、2学年（高1と高2の児童教育・健康栄養・進学コース）に拡大し、その次は3学年全体に広げていく予定です。そのためには、この取り組みに携わる教師の人数も増やさなければ行けませんし、moodle reader を使うためのコンピュータールームの調整も必要となってくるでしょう。人数が多くなるということは、単純に打ち合わせの時間を今年以上に確実に確保し、各教師間の意思の疎通を図らなければなりません。また、生徒たちはどんどん物語を読んでいくわけですから、物語の冊数も増やしていかなければなりません。「多読」と銘打ってはいますが、生徒たちが「多読」をできるのは授業中だけです。授業だけでは読むことができる冊数は限られます。授業だけでなく、休み時間や放課後などの時間にも気軽に「多読」ができる環境を作ることも大事です。

そして moodle reader のクイズで得たスコアを、どのような形で評価に反映させていくか…。まだまだ問題点は残っていますが、とにかく新しい取り組みは始まったばかりです。授業を展開しつつ、担当者でその問題点を指摘しあい、問題点を解決しながら授業を進めていく、そのようにして日々前進し、この取り組みを樟蔭のセールスポイントにしていきたいと思います。